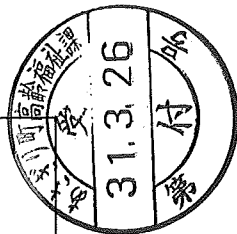


小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	有限会社 えがお	代表者	小場佐 美穂	法人・事業所の 特徴	小規模多機能居宅介護事業所として、利用者や家族の生活状況に合わせて通いや訪問、泊りサービスを提供しています。また、介護という仕事を通して自己研鑽に努め、利用者、家族、スタッフが笑顔で生活できるように、スタッフ一丸となって頑張っています。
事業所名	小規模多機能ホーム ほほえみ	管理者	徳永 義昭		
出席者	市町村職員	知見を有するもの	1人	利用者家族	1人
		地域住民・地域団体	2人	近隣事業所	人
		利用者	1人	地域包括支援センター	人
		地域団体	2人	事業所職員	6人
		その他	1人	合計	12人

項目	前回の改善計画	今回の改善計画	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	<p>1. 利用開始前に管理者だけでなく、スタッフも付き添い本人や家族からの情報を聞き取り、支援を考える。</p> <p>2. 喫茶の日に、レクリエーションの代わりに利用者と一緒に話す時間を設け、ニーズの把握や支援を行うようにする。</p> <p>3. フェイスシートの更新を行い、スタッフ全員が閲覧・活用できるようにする。</p> <p>4. スタッフの地域資源に対する知識を深める。</p> <p>5. 2か月に1回程度地域資源を活用できるイベントを企画する。</p> <p>6. これまでの地区行事・イベント等は継続し参加していく。</p> <p>7. 運営推進会議やデイサロンの意見や苦情等の聞き取りを積極的に進行。</p> <p>8. 外部研修へ参加できるような環境を会社主導で作る。</p> <p>9. 研修参加や内部研修等を行い、日頃のケアを振り返る機会を設ける。</p>	<p>前回の改善計画に対する取り組み・結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者だけでなく、現場職員も訪問調査や家族との会議に出席することができた。</li> <li>・喫茶の日に利用者様とのコミュニケーションは取れるようになった。</li> <li>・業務や私語により、職員の時間になつてしまふ事があった。</li> <li>・フェイスシートを更新したことで、緊急時や情報の共有に活用できた。</li> <li>・活用方法や知識を深めることができなかった。</li> <li>・1～2か月に1回程度のイベントを実施し、利用者様に楽しんでいただけた。</li> <li>・地区行事の参加は継続できた。</li> </ul> <p>積極的とは言いが難かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見や苦情に対しては必ず管理者に報告を行い、情報を共有をした。</li> <li>・外部研修に参加しやすい環境にはなつた。</li> <li>・内部研修により日頃のケアを振り返る機会を設けることができた。</li> </ul>	<p>・よくわからない。</p> <p>・喫茶の時間として飲み物を利用者様に選んでもらうのはいいと思う。</p> <p>・救急搬送の際、職員からいただいた申し送り用紙が非常に役に立った。</p> <p>・地域資源という言葉の意味がよくわからなかった。</p> <p>・利用者様が楽しめる行事があるのはいいと思う。</p> <p>・サロンや清掃など参加してもらっている。</p> <p>・よくわからない。</p> <p>・これからはわかってくるのと思う。</p> <p>・よくわからない。</p> <p>・プライベートについては今後の課題になってくる。</p>	<p>1. 前回の改善計画を継続し、利用開始前は現場職員も付き添い、必要な情報を聞き取り、カンファレンスや記録をもとに情報を共有する。</p> <p>2. 各担当が喫茶の時間にニーズや困りごとの聞き取りを行い、毎月のモニタリングで発表しケアプランに反映していく。</p> <p>3. 利用前より、管理者・看護師・介護職員でそれぞれの話し合いに参加し、以前の生活歴や経験などを家族に聞き取り、状態の把握につなげる。</p> <p>4. 地域資源マップを作成し、職員全体が把握できるようにする。</p> <p>5. 今後も本人の状態に合わせて柔軟な支援を、利用者のニーズに合わせて提供していく。</p> <p>6. 地域の行事をもっと把握できるようサロンでの働きかけを行うとともに、地域の方からも話しかけやすい見知りの関係をつくる。</p> <p>7. 運営推進会議にできるだけ多くの職員も参加し、地域の方と交流を持つようにする。</p> <p>8. 内部研修の参加の徹底・外部研修の情報提供を行い、職員のスキルアップを目指す。</p> <p>9. 身体拘束・虐待についての内部研修を今後も継続し、日頃のケアを振り返る機会を設ける。</p>



<p>B. 事業所のしつらえ・環境</p>	<p>・毎週火・金を喫茶の日とし、利用者やゆつくり話す時間を設ける。 ・身体拘束・虐待防止に関する委員会を設立する。</p>	<p>・喫茶の日を火・金の午後のレクリエーションの時間に設け、利用者様とゆつくりコミュニケーションをとる時間を作った。 ・身体拘束防止委員会をえがとおと合同で設置し、定期的に会議を開催し運営推進会議でも報告を行った。</p>	<p>・地元にいるがなかなか行かない。 ・施設で行うデイサロンの回数を増やしてはどうか？ ・臭気や衛生面などいつもきちんとしてくれる。</p>	<p>・喫茶の時間は利用者様と話しやすいように、情報シートなどを活用する。 ・施設でのデイサロンの回数を増やす。</p>
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>・職員が交代で地域型サロン出前講座を行う。</p>	<p>・職員が交代でデイサロンに行くことができた。</p>	<p>・地域の方が訪れやすいようにカフェなどは検討しているが、なかなか実現までに踏み出せない。 ・いつも挨拶をしてもらい、来訪時待たされたことがない。</p>	<p>・地域の方が相談しやすいようにお茶会を設ける。 ・デイサロンへ職員が交代で行き、顔見知りの関係を築いていく。</p>
<p>D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>・地区のサロンや地区の行事に利用者と一緒に出向き地域の方と交流を図る。</p>	<p>・可能な利用者には一緒に地域イベントに参加して頂いた。</p>	<p>・利用者さんを連れてきてもらっている。 ・以前は散歩をするのをよく見かけたが、最近あまり見なくなかった。 ・紅葉見学や、ドライブ・散歩などよくしてもらっている。</p>	<p>・地域資源マップを作成する。 ・気候をみながら、近所の散歩の回数を増やす。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>・運営推進会議での意見を、後の会議で経過報告する。</p>	<p>・防災訓練や夏祭りなどの経過報告は行えた。</p>	<p>・施設に足を運んでもらう意味でも、運営推進会議は施設で行った方がいい。 ・利用者家族からの意見が聞けるのは勉強になる。 ・事業所・職員からも「こんなこともできませう」というアプローチが必要なのではないか？</p>	<p>・運営推進会議に当日勤務職員は参加する。 ・当施設で行っていることをお知らせし、理解を深めてもらう。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>・防災訓練計画を運営推進会議に示し、意見を聞き、防災訓練に反映していく。</p>	<p>・防災訓練計画を運営推進会議に示し、意見を聞くことができた。</p>	<p>・訓練していたらすぐに役に立つと思う。 ・施設内だけでも訓練の回数を増やした方がいいと思う。 ・防災訓練を行っている。</p>	<p>・ほほえみ内での訓練や、通報の訓練を行う。 ・防災マップの掲示と勉強会を開催する。</p>